

分析結果報告書〔7〕 2/10

<分析方法等>

分析方法 注)	1. 固相抽出ーガスクロマトグラフ質量分析法(GC/MS) 2. 溶媒抽出ーガスクロマトグラフ質量分析法(GC/MS) 3. その他()
試料受取日	()
分析開始までの試料保存日数(日)	()日
前処理に要した日数(日)	()日

注) 質量分析法の内容、例えばSIM法、マスキング法、SRM法は問わない。

<分析用試料の作製>

希釈に使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()
希釈方法	1. マイクロシリンジを使って共通試料2を適量の水を入れた容器に直接添加して全量使用 2. 全量ピペットを使って共通試料2を適量の水を入れた全量フラスコに加えて水でメスアップ後に全量使用 3. マイクロシリンジまたは全量ピペット及び全量フラスコを用いて水で適当回数希釈後、メスシリンダー等で試料容器に分注 4. その他()
共通試料2の分取量(mL)	() mL
希釈倍率	1. 1000倍 2. その他()倍
1000倍希釈を行わなかった理由	()

<測定用試験液の調製-1>

試料量(mL) (希釈済みのもの)	() mL
試料のpH調節	1. 調節した:pH() 2. 調節しなかった
添加した塩酸濃度(mol/L)	() mol/L
塩酸添加量(mL)	() mL/試料
抽出方法	1. 固相抽出 2. 溶媒抽出 3. その他()
固相抽出 固相の形状 充填剤の種類	1. カートリッジ 2. ディスク 3. その他() 1. スチレンジビニルベンゼン 2. メタクリレート・スチレンジビニルベンゼン 3. N含有メタクリレート・スチレンジビニルベンゼン 4. オクタデシルシリカゲル 5. オクチルシリカゲル 6. その他()
方法 平均通液速度(mL/分)	1. 吸引 2. 加圧 3. その他() () mL/分
固相の脱水 実施の有無 脱水方法	1. 実施した 2. 実施しなかった 1. 窒素ガス吹き付け 2. 室内空気吸引 3. 遠心分離の後窒素ガス吹き付け 4. 遠心分離のみ 5. 窒素ガスを通してポンプ吸引 6. その他()
溶出 溶媒の種類 溶出量(mL)	1. アセトン 2. ジクロロメタン 3. その他() () mL
溶出液の転溶 実施の有無 転溶方法	1. 実施した 2. 実施しなかった 1. 濃縮してジクロロメタンに転溶 2. 濃縮してヘキサンに転溶 3. その他()
溶媒抽出 塩析 実施の有無 塩化ナトリウム(g)	1. 実施した 2. 実施しなかった () g
溶媒の種類 溶媒の使用量(mL) 1回当たりの抽出時間(分)	1. ジクロロメタン 2. その他() 1回目() mL/試料 2回目() mL/試料 () 分
溶出液の脱水 実施の有無 脱水方法	1. 実施した 2. 実施しなかった 1. 乾固して再溶解 2. 無水硫酸ナトリウムによる脱水 3. その他の方法()

分析結果報告書〔7〕 3/10

<測定用試験液の調製-2>

カラムクリーンアップ 実施の有無	1. 実施した 2. 実施しなかった
クロマトカラムの種類	1. オープンカラム (充填剤をカラムに充填) 2. カートリッジカラム (市販品)
オープンカラム充填剤の種類	3. その他 () 1. 5%含水シリカゲル 2. 活性化シリカゲル (含水させなかった)
充填剤/オープンカラム (g)	3. その他 () () g
カートリッジカラム充填剤の種類	1. フロリジルカラム 2. シリカゲルカラム 3. グラファイトカーボン
充填量/カートリッジカラム (g)	4. その他 () () g
溶出方法 前捨て	1. 有り 2. 無し
前捨て溶媒の種類	1. ジクロロメタン/ヘキサン比率 (:) 2. その他 () 比率 (:)
ノニルフェノール画分	1. ジクロロメタン/ヘキサン比率 (:)
溶出溶媒の種類	2. その他 () 比率 (:)
溶出試料の濃縮方法	1. ロータリーエバポレーター 2. KD 3. 窒素吹き付け 4. ロータリーエバポレーターと窒素吹き付け 5. その他 () 6. 行わない
定容量 (測定用試験液量) (mL)	() mL
定容に用いた溶媒の種類	1. ヘキサン 2. ジクロロメタン 3. アセトン 4. その他 ()

<GC/MS>

GC	メーカー 型式	1. 島津製作所 2. アジレント 3. サーマフィッシャー 4. その他 () ()
MS	メーカー 型式 装置型式 イオン検出法	1. 島津製作所 2. アジレント 3. 日本電子 4. サーマフィッシャー 5. その他 () () 1. 四重極 2. タンデム (MS/MS) 3. イオントラップ 4. その他 () 1. SIM法 2. マスクマトグラム法 3. SRM (MRM) 法 4. その他 ()
カラム	液相 内径 (mm) 長さ (m) 膜厚 (μm)	1. 5%ジフェニル95%ジメチルポリシロキサン 2. 5%ジフェニル95%ジメチルアリレンシロキサン 3. その他 () 1. 0.25mm 2. 0.32mm 3. その他 () mm 1. 30m 2. 60m 3. その他 () 1. 0.25 μm 2. 0.25 μm未満 3. 0.25 μm超
昇温条件	初期 1 回目の昇温 2 回目の昇温 3 回目の昇温 4 回目の昇温 (5 回以上の昇温の場合) 昇温回数 (回)	温度 () °C、 温度保持 () 分 速度 () °C/分 到達温度 () °C 温度保持 () 分 速度 () °C/分 到達温度 () °C 温度保持 () 分 速度 () °C/分 到達温度 () °C 温度保持 () 分 速度 () °C/分 到達温度 () °C 温度保持 () 分 最終温度 () °C、 温度保持 () 分 回数 () 回
キャリアガス条件	種類 キャリアガス制御モード 流量又は線速度 一定の場合 圧力 一定の場合	1. 窒素 2. ヘリウム 3. その他 () 1. 流量又は線速度一定 2. 圧力一定 () 単位: 1. mL/分 2. cm/秒 () 単位: 1. psi 2. kPa 3. その他 ()
注入量 (μL) 注入口温度 (°C) 注入方式	() μL () °C 1. スプリット 2. スプリットレス 3. パルスドスプリット 4. パルスドスプリットレス 5. 大量注入 6. その他 ()	

分析結果報告書〔7〕4/10

<定量用質量数、確認用質量数>

区分		1. すべての異性体とも告示例のとおり 2. 確認用のみ告示と異なる 3. 定量用・確認用とも告示と異なる 4. その他 ()	
項目		定量用質量数 注)	確認用質量数 注)
ノニルフェノール	番号 1	()	()
	2	()	()
	3	()	()
	4	()	()
	5	()	()
	6	()	()
	7	()	()
	8	()	()
	9	()	()
	10	()	()
	11	()	()
	12	()	()
	13	()	()

注) SIM法またはマスクロマトグラム法で定量した場合は、定量イオン(m/z)、確認イオン(m/z)を、SRM法で定量した場合は、定量トランジション(プリカーサイオン(m/z)>プロダクトイオン(m/z)記入する(「163>107」の様に記入する)。定量する場合に2種類のイオンまたはトランジションのレスポンスの含量を用いた場合は、両イオンの(m/z)又はトランジションを“+”で記入する(「135+149」の様に記入する)。確認用トランジションを測定しなかった場合は空欄とする。

<標準原液>

ノニルフェノール	標準原液調製方法		1. 入手した標準品を購入、秤量、溶解して標準原液を調製 2. 標準原液を購入
	メーカー名 注1)		1. 関東化学 2. 富士フイルム和光純薬 3. その他 () 4. 自作(原体メーカー:)
	Lot 番号		()
	異性体組成比の測定方法等 注2)		1. 標準液を GC/FID で測定して得られたクロマトグラムにおける各ピークの面積/13本のピークの総面積×100 2. 標準液を GC/FID で測定して得られたクロマトグラムにおける各ピークの面積/全ピーク(13本以外のピークを含む)総面積×100 3. 標準液を GC/MS (SCAN) で測定して得られたトータルイオンカレントクロマトグラムにおける各ピークの面積/13本のピークの総面積×100 4. 標準液を GC/MS (SIM) で測定して得られた再構成イオンカレントクロマトグラムにおける各ピークの面積/13本のピークの総面積×100 5. 文献値(引用した文献名:) 6. その他 ()
	組成比算出に用いた4-NP標準液のクロマトグラムにおけるピーク面積の積分方法		1. 谷の点を結んだ(谷渡り) 2. 垂直分割 3. その他 ()
組成比 注2)	番号 1	() %	
	2	() %	
	3	() %	
	4	() %	
	5	() %	
	6	() %	
	7	() %	
	8	() %	
	9	() %	
	10	() %	
	11	() %	
	12	() %	
	13	() %	

注1) 製造会社名を選択する(「販売会社ではない」ことに注意する)。

注2) 標準物質(4-ノニルフェノール)は、異性体の混合物であり、組成比を求める。

分析結果報告書〔7〕5/10

<検出下限値及び定量下限値>

		装置検出下限値 注)	分析法検出下限値 注)	分析法定量下限値 注)
ノニルフェノール	番号 1	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	2	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	3	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	4	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	5	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	6	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	7	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	8	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	9	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	10	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	11	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	12	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
	13	() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$
ノニルフェノール		() ng	() $\mu\text{g/L}$	() $\mu\text{g/L}$

注) 装置検出下限値はGC/MSへの注入量 (ng)、分析法検出下限値・分析法定量下限値は試料中の濃度 ($\mu\text{g/L}$) として示す。算出しない場合は記入しない

<検出下限値及び定量下限値の算出方法>

装置検出下限値算出方法 注)	1. S/Nに基づく：標準液濃度 () $\mu\text{g/L}$ 、採用したS/N () 2. 標準液の繰り返し測定値の標準偏差を用いた方法 ($IDL = t(n-1, 0.05) \times \sigma_{n-1} \times 2$ 、又は 3σ で計算)：標準液濃度 () $\mu\text{g/L}$ 、繰り返し回数 () 回 3. 装置ブランク試料繰り返し測定値の標準偏差を用いた方法 (3σ 法で計算)：繰り返し回数 () 回 4. その他 ()
分析法検出下限値算出方法 注)	1. S/Nに基づく：標準液濃度 () $\mu\text{g/L}$ 、採用したS/N () 2. 標準液の繰り返し測定値の標準偏差を用いた方法 ($MDL = t(n-1, 0.05) \times \sigma_{n-1} \times 2$ 、又は 3σ で計算)：標準液濃度 () $\mu\text{g/L}$ 、繰り返し回数 () 回 3. 装置ブランク試料繰り返し測定値の標準偏差を用いた方法 (3σ 法で計算)：繰り返し回数 () 回 4. その他 ()
分析法定量下限値算出方法 注)	1. 水生生物保全環境基準の10分の1として運用 2. 「水質汚濁に係る環境基準」に記載されている定量下限値を引用 3. 10σ 法で計算：標準液濃度 () $\mu\text{g/L}$ 、繰り返し回数 () 回 4. その他 ()

注) ここで σ は特定濃度の対象物質を繰り返し測定し、得られた標準偏差をさす。

<検量線の作成等>

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 注1) 3. 内標準法 注2) 4. サロゲート物質を用いた内標準法 注2) 5. その他 ()	
内標準物質	使用の有無	1. 使用する 2. 使用しない
	添加物質	1. 4-n-ノニルフェノール-d4 2. フェナントレン-d10 3. その他 ()
	調製溶媒	1. ジクロロメタン 2. ヘキサン 3. アセトン 4. その他 ()
	内標準物質濃度 ($\mu\text{g/mL}$) 添加量 (mL) 注3)	() $\mu\text{g/mL}$ () mL/試料
サロゲート物質	使用の有無	1. 使用する 2. 使用しない
	添加物質	1. 13C-4-(3,6-ジメチル-3-ヘプチル)フェノール 2. 13C-4-n-ノニルフェノール 3. その他 ()
	調製溶媒	1. ジクロロメタン 2. ヘキサン 3. アセトン 4. その他 ()
	サロゲート物質濃度 ($\mu\text{g/mL}$) 添加量 (mL) 注3)	() $\mu\text{g/mL}$ () mL/試料
	回収率 (%)	() %

注1) 標準添加法は、試料最終検液 (抽出試料) にその濃度と同程度～数倍程度相当の標準液を段階的に添加・調製した試料を分析し検量線を作成し、検量線が横軸と交差する濃度の絶対値を試料濃度とする方法である。

注2) 検量線の縦軸に、内標準法はノニルフェノールと内標準物質のレスポンス比を、サロゲート法は、ノニルフェノールとサロゲート物質のレスポンス比を用いる。

注3) 単位に注意して記入、マイクロシリンジで添加した場合には、mLに換算すること

分析結果報告書〔7〕6/10

<ピークの重なりと対処>

項目	重なり	重なりがあった場合の対処	
ノニル フェノ ール	番号 1	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	2	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	3	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	4	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	5	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	6	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	7	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	8	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	9	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	10	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	11	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	12	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）
	13	1. あり 2. なし	1. 重なったピークとの谷で垂直分割して積分・定量 2. ピークの立ち上がり点又は終わり点と重なったピークとの谷を結んだ線をゼロライン（ベースライン）として積分・定量 3. 1本のピークとして積分・定量 4. その他（ ）

<試料の保存>

共通試料保存方法	1. 冷蔵 2. その他（ ）
希釈試料保存方法	1. 冷蔵 2. その他（ ）

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--

添付クロマトグラムのファイル名	
検量線データ	()
操作ブランクデータ	()
共通試料データ	()
精度管理用データ 注)	()

注) 下限値の算出、添加回収試験等。実施、添付した場合に記入する。

分析結果報告書〔7〕7/10

<検量線 - 1 >

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()							
検量線		ピーク番号 1				ピーク番号 2			
		対象物質		サロゲート 注2)		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値	量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
空試験 注3)		—		—		—		—	
試料 1 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 2 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 3 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 4 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 5 回目 注4)		—		—		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。
 注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。
 注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。
 注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。

<検量線 - 2 >

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()							
検量線		ピーク番号 3				ピーク番号 4			
		対象物質		サロゲート 注2)		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値	量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
空試験 注3)		—		—		—		—	
試料 1 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 2 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 3 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 4 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 5 回目 注4)		—		—		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。
 注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。
 注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。
 注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。

分析結果報告書〔7〕 8/10

<検量線 - 3>

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()							
検量線		ピーク番号 5				ピーク番号 6			
		対象物質		サロゲート 注2)		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値	量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
空試験 注3)		—		—		—		—	
試料 1回目 注4)		—		—		—		—	
試料 2回目 注4)		—		—		—		—	
試料 3回目 注4)		—		—		—		—	
試料 4回目 注4)		—		—		—		—	
試料 5回目 注4)		—		—		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。
 注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。
 注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。
 注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。

<検量線 - 4>

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()							
検量線		ピーク番号 7				ピーク番号 8			
		対象物質		サロゲート 注2)		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値	量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
空試験 注3)		—		—		—		—	
試料 1回目 注4)		—		—		—		—	
試料 2回目 注4)		—		—		—		—	
試料 3回目 注4)		—		—		—		—	
試料 4回目 注4)		—		—		—		—	
試料 5回目 注4)		—		—		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。
 注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。
 注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。
 注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。

分析結果報告書〔7〕9/10

<検量線 - 5>

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()							
検量線		ピーク番号 9				ピーク番号 10			
		対象物質		サロゲート 注2)		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値	量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
空試験 注3)		—		—		—		—	
試料 1 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 2 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 3 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 4 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 5 回目 注4)		—		—		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。

注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。

注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。

注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。

<検量線 - 6>

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()							
検量線		ピーク番号 11				ピーク番号 12			
		対象物質		サロゲート 注2)		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値	量または濃度 注1)	応答値	量または濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度とし、番号順に高濃度とする)	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
空試験 注3)		—		—		—		—	
試料 1 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 2 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 3 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 4 回目 注4)		—		—		—		—	
試料 5 回目 注4)		—		—		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。

注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。

注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。

注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。

分析結果報告書〔7〕 10/10

<検量線 - 7 >

単位		1. ng 2. ng/mL 3. その他 ()			
検量線		ピーク番号 13			
		対象物質		サロゲート 注2)	
		量または 濃度 注1)	応答値	量または 濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度 とし、番号順に 高濃度とする)	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
空試験 注3)		—		—	
試料 1回目 注4)		—		—	
試料 2回目 注4)		—		—	
試料 3回目 注4)		—		—	
試料 4回目 注4)		—		—	
試料 5回目 注4)		—		—	

注1) 検量線標準液の濃度及び組成比より算出する。

注2) サロゲートを使用しないで内標準物質を使用した場合は、内標準物質の応答値を () して記入する。どちらも使用しなかった場合は空欄とする。

注3) 標準添加法で定量した場合は記入しない。

注4) 標準添加法で定量した場合は添加のない試料の値を示す。